

巻頭特集 嫁見まつり



花嫁衣裳に身を包み、良縁への感謝と末永い幸せを祈ってお参りをする。能代鎮守日吉神社の「嫁見まつり」は、江戸時代から続く晴れ着参詣の風習を受け継ぐ、全国でも珍しいまつりです。

中の申祭と嫁見まつり

室町時代
天文2年(1533年)、日吉神社に神様が奉安された旧暦4月の「中の申」の日が、中の申祭の起源とされています。祭りの日には、正装の初嫁や、晴れ着姿の子ども、若い女性が参詣する風習がありました。

大正～昭和初期
中の申祭には、出店が並び、新妻は人力車に乗って参拝。その姿を見ようと、参拝客が集まり、女の子たちも一番良い着物を着て神社へ向かうなど、子どもから大人まで心待ちにするハレの日でした。

昭和48年頃～
戦後途絶えていた風習が、先代宮司の「後世に伝えたい」という熱意により復活。花嫁たちが行列を組んで参道を歩く現在の形が生まれ、「嫁見まつり」の名が定着していきま

平成12年頃～
現在は、観光協会との連携が深まり、縁日やKids着物行列も加わって、花嫁だけでなく地域全体で祝うにぎやかなまつりへと発展しています。



日吉神社のご祭神の一つである大国主大神は、縁結び・良縁の神様とされています。江戸時代の文献「代田間見録」(1741年)には、新妻や新婿が装束を競い、境内の愛宕神社に詣でた記録が残り、明治10年の遐邇新聞にも良縁を求めて着飾った男女が参詣する様子が報じられています。また、昭和48年の北羽新報では、「嫁見まつり」が復活した際、戦後初めてのこの行事を見ようと多くの市民が境内を訪れ、その華やかさと初々しさに目を見張ったと報じられています。



愛宕神社跡



昭和54年の様子

【 花嫁の装い 】

室町時代に高貴な女性が祭事に着用していた最も格式高い着物が打掛と呼ばれていました。絹地に金糸・銀糸の刺繍や吉祥文様があしらわれ、花嫁の美しさを一層引き立てます。嫁見まつりでは、色鮮やかな打掛をまとった花嫁たちが新緑の参道を歩く姿が、訪れる人々を魅了しています。

実は能代には、日吉神社よりも古い「嫁見祭」の記録があります。江戸時代の文献「伊頭園茶話」には、八森あたりの女性たちが杉沢熊野神社(能代市磐宇杉沢)の祭礼に晴れ着で参道を歩き、その姿を見物する人々が集まったことから「嫁祭」と呼ばれたと記されています。花嫁を見る祭りの原風景は、この地域に深く根づいていたのです。

花嫁インタビュー

令和6年参加
齋藤プラジャパティ小夜里さん

高校時代を能代で過ごした小夜里さん。友人が花嫁として参加したことをきっかけに嫁見まつりを知り、参加を決意。一度はコロナで中止となったものの、満を持して令和6年に夫のサジスさんと参加しました。結婚式を挙げていなかったお二人にとって、神社への参拝は人生の節目を実感する貴重な機会に。日本語が話せないサジスさんも、他のカップルや地域の方々温かく迎えられ、餅つき体験やテレビの取材など、すべてを楽しみむことができたそうです。「参加前は形式的なものをイメージしていましたが、想像以上にアットホームで心が温かくなる時間でした」と小夜里さん。

当日の写真を見返しながら、今もご夫婦で思い出を語り合っているといます。今後参加される方に対しては、「これから先もふと思いついたくなるような、素敵な一日になると思います！」とエールを送ってくださいました。



開催情報 令和8年5月23日(土) 14:00~19:00 日吉神社境内

当日のスケジュール

- 14:00頃 ● 縁日開始 📷 撮影チャンス (屋台、スイーツ販売など)
- 16:00頃 ● ~中の申祭 宵祭~
- 16:45頃 ● 奉納「お杉音頭」
- 17:20頃 ● Kids着物行列 📷
- 17:30頃 ● 嫁見行列 📷 (鳥居から社殿へ)
- 18:50頃 ● 嫁見行列 📷 (社殿から鳥居へ)



※お車でお越しの方は、山本地域振興局駐車場をご利用ください。能代市役所駐車場も利用できます。



◀能代まち歩き案内人の会による境内ミニツアーも開催！

井坂記念館も特別開催！館長自ら熱意を込めてご案内します。 ※開館時間を19時まで延長します。



嫁見まつりでは打掛姿の花嫁たちが、良縁感謝と末永い幸福を祈願するため、参道を歩きます。近年は幸せな結婚を願う未婚女性も参加しています。フォトコンテストも開催しますので、ぜひお越しください。

▶問合せ 能代観光協会 Tel.88-8802



能代鎮守日吉神社
宮司 平賀 優子さん

以前は結婚して1年以内の方だけが対象だった嫁見まつり。今では未婚の方や、結婚10年、20年の節目に参加される方もいます。「それぞれが良いご縁となるよう祈願しています」と平賀宮司は語ります。

かつて花嫁さんはお母さんや美容師さんと参加したのですが、ある年、付き添いが来られなくなった花嫁さんが旦那様と一緒に歩きました。

それが好評を呼び、今では夫婦での行列が定番に。Kids着物行列も始まり、縁日のにぎわいも年々増えています。

一方で、「嫁見まつりは『神事』が基本。そこは崩さずに守り続けています」とも。神社の祭典は地域と結びつくもので、にぎわいの中心にあるのは、地域の安寧を願う祈りです。「まずは地域の方にお参りに来てほしい。当日は能代まち歩き案内人による境内の案内もありますので、ぜひ楽しんでください」。神事としての祭りを守りながら、もっと多くの人に知ってもらいたい。その願いが静かに伝わってきました。



社殿でお祓いを受ける花嫁さんたち



縁日



Kids着物行列



秋田県美容生活衛生同業組合
能代支部長 加藤 妙子さん

嫁見まつり当日、花嫁たちの着付けを担うのが秋田県美容生活衛生同業組合能代支部の皆さんです。加盟店のうち13店舗がそれぞれ花嫁を受け持ち、約1時間半かけて仕上げしていきます。「着付けを進めていくと、花嫁さんの目が輝いていくのがわかるんです」と、現支部長の加藤さんは語ります。10年ほど前に支部長を引き継いで以来、大切にしてきたのは「花嫁さんを担当する美容師だけでなく、組合員みんなで関わること」。Kids着物行列も、きちんとした技術での着付けを子どもたちにも感じてほしいという思いがあります。「子どもの祖父母など多くの方が見に来てくれて、にぎわいにもつながっています」。

近年は和装での結婚式が減り、着付けの技術を持つ美容師も少なくなっています。「嫁見まつりのように腕の見せどころとなるイベントは貴重。この技術を若い美容師にも伝えていきたい」。花嫁行列で打掛姿が見られる祭りは全国的にも珍しく、「能代にゆかりのない方にもぜひ参加してほしい」と力を込めます。美容師の技術と誇りが、嫁見まつりの華やかさを支えています。



祭りを取り囲む人々



お杉音頭